



第 64 号
令和4年2月1日 発行
発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長
横田 治重

基本“唯惜命”
理念

私たちは生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

- 呼吸器内科 科長就任ご挨拶……………1
- 副病院長就任のご挨拶……………2
- 専門看護師・認定看護師の紹介 今回はQ&Aで紹介させていただきます。……………3
- 研究所でweb講義を開催しました/新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための取組みについて…4



埼玉県のマスコット コバトン

呼吸器内科
科長就任のご挨拶



埼玉県立がんセンター呼吸器内科
科長兼診療部長 大柳 文義

令和3年4月1日より、
酒井 洋先生の後任として
埼玉県立がんセンター呼吸

器内科科長兼診療部長を拝命いたしました大柳文義（おおよなぎ ふみよし）と申します。

私は、平成9年に昭和大学医学部を卒業後、同大学第一内科に入局しました。その後、平成11年から同大学大学院（病理学）に進み、平成13年より（財）癌研究会附属病院（現、がん研究会有明病院）に出向し、シニアレジデントとして任用されました。その際に呼吸器内科・外科、放射線科、病理、細胞診の先生方とご一緒する機会に恵まれ、チーム医療の実践を目の当たりにし、肺癌化学療法を専門として選択した次第です。その後は同院でフェロー、医員、医長として研鑽を積んで参りました。

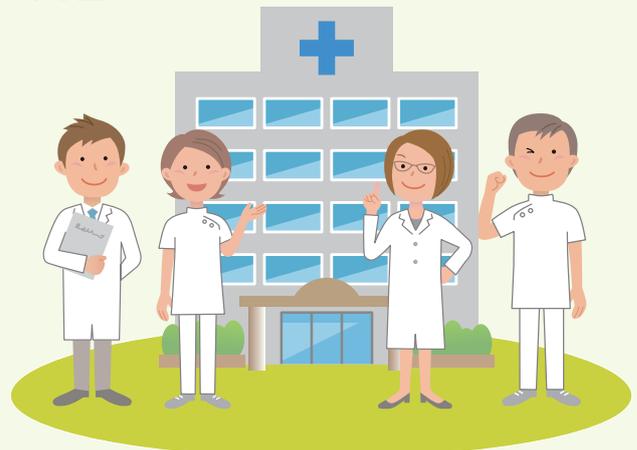
平成29年4月1日からは自治医科大学附属さいたま医療センター総合医学第一講座（呼吸器内科）准教授を拝命し、今後、次世代を担う臨床医、研究者の育成および地域医療のさらなる充実のために微力ながら努めてまいりました。

現在、肺癌における薬物療法は、2004年にEGFR遺伝子変異が発見されて以降、ALK、

ROS1、RET融合遺伝子、BRAF、MET、KRAS遺伝子変異などのドライバー遺伝子変異が相次いで発見され、同時に新薬開発も著しく進歩してきました。また、数年前からは免疫療法（抗PD-1/L1抗体や抗CTLA-4抗体）が臨床導入されたことにより、肺癌薬物療法の治療成績は飛躍的に向上してきています。肺癌の標準治療は劇的に変化し、治療に伴う副作用は多岐に渡り、全身的な管理が必要となってきています。

肺癌の薬物療法において新規薬剤の開発は欠かすことができず、当科でも治験・臨床試験に積極的に取り組み、成果を上げてきています。専門性の高い病院であることの利点を生かし、各診療科の先生方、病棟スタッフや薬剤部、治験管理室やCRCを中心とした多くのメディカルスタッフの方々と連携を取りながら、より良い治療を提供する事で地域へ貢献できるよう努力していきたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



副 病 院 長 就 任 の ご 挨拶



副病院長兼看護部長
佐川 みゆき

2021年4月より副病院長に就任いたしました佐川みゆきでございます。就任にあたりご挨拶を申し上げます。

私は、当センターで新人看護師として看護のスタートを切りました。その後、循環器・呼吸器病センター、総合リハビリテーションセンター、精神医療センターと3つの県立病院を経験しました。病院以外では、埼玉県庁や高等看護学院、高等技術専門校で、行政や看護学生及び介護職の育成にかかわってまいりました。これらの多くの経験は、地域包括ケアシステムの中で多角的に物事を考える視点が求められている今、私の強みとなっています。そして、再び当センターに戻り、看護部長として働く機会をいただき、今年度より副病院長を拝命しました。

看護部トップマネージャーが副病院長になる意味について、「組織の中で最も大きな部署である看護部は、病院経営に及ぼす影響が大きいこと」、「看護師は、患者に最も近い存在として、患者の視点を活かした組織改善に向け力を発揮できること」にあると、私は考えています。当センターは、基本方針の一つに、『日本一患者と家族にやさしい病院』を掲げています。この基本方針を実現するために、副病院長として二つのことに挑戦したいと思います。第一に、患者と家族一人ひとりの声に耳を傾け、その声を病院運営に活かすことです。具体的には、『病院長への手紙』の活用や患者満足度調査の分析などをおして病院職員の接遇の強化を図ります。

第二に、患者に不安を感じさせることなく質の高いがん医療を提供できるよう、入退院支援センター、地域連携・相談支援センターを集約した『患者サポートセンター』設置に向けた準備を進めて参ります。

さて、県立病院は、地方独立行政法人として今年度新たなスタートを切りました。看護部のビジョンは、『「独法化になって良かった」と思える組織を目指す～がんセンターの看護職員が元気で笑顔でいきいきと看護ができる組織づくり～』です。そのために、看護部のスローガンである『認めあい 支えあい 成長する看護』プロジェクトを立ち上げ、専門・認定看護師を中心に、たくさんのがん看護のやりがいを語り合う機会を作っています。看護職員が、がん看護のやりがいを見出しいきいきと働き続けられることが、がん看護の質向上に繋がるものと信じております。また、当センターは県内で唯一の都道府県がん診療拠点病院として、県内のがん診療の均てん化と向上の役割を担っております。看護部会の開催はもちろん、がん看護公開講座等様々な機会をとおして県内の医療機関と連携を図って参ります。

おわりに、新型コロナウイルス感染症の拡大で、業務の見直しなどタイムリーな対応が迫られる中ではありますが、病院長補佐としてスタッフひとり一人の力を借りながら、患者さんとご家族にやさしい病院を目指し歩んでいきたいと思っています。何卒、よろしく願いいたします。



専門看護師 認定看護師の紹介

今回は Q & A で紹介させていただきます。看護部

? 〈専門看護師・認定看護師ってなに?〉

専門看護師とは、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系の大学院で修士課程を修了した後に、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格です。認定看護師とは、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める教育課程を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格です。どちらも、審査合格後は活動と自己研鑽の実績を重ね、5年ごとに資格を更新しています。



? 〈どんな専門・認定分野の看護師がいるの?〉

現在、埼玉県立がんセンターには、がん看護専門看護師4名と在宅看護専門看護師1名、そして26名の認定看護師（がん化学療法看護、がん放射線療法看護、手術看護、がん性疼痛看護、緩和ケア、皮膚排泄ケア、乳がん看護、摂食・嚥下障害看護、感染管理、糖尿病看護、認知症看護、集中ケア）がおります。



? 〈どんな活動をしているの?〉

患者さんご家族の問題を総合的に捉え、専門・認定看護分野の専門性を発揮しながら、課された役割を果たし、施設全体や地域の看護の質の向上に努めています。

～活動の具体例～

他の看護師に対し、自らが手本となって看護技術などを指導し水準の高い看護を行えるように働きかけたり、看護の現場で直面する問題や疑問の相談を受け、改善策を導き出せるよう支援しています。

在宅療養をされる患者さんが、必要な医療を円滑に受けられるよう、医師や看護師、地域の訪問診療医や訪問看護師、ケアマネジャー等の多職種・施設に働きかけて調整し、連携を推進しています。

看護外来を担当し、乳がん患者さんや頭頸部がんの手術を受ける患者さん、化学療法を受ける患者さん、ストーマケアが必要な患者さん、緩和ケアの重要性が高まっている患者さんが安心して療養できるよう、困り事や気がかりの相談に応じています。

アドバンスケア・プランニングや治療方針の決定など倫理的問題が生じやすい場面に積極的に関わり、患者さんやご家族の思いを尊重できるよう多職種に働きかけています。

専門・認定分野のリンクナースの教育と活動を支援し、人材育成と看護の質向上に貢献しています。

? 〈どこで活動しているの?〉

外来や病棟などの特定の部署で活動するだけでなく、看護部や相談支援センター、緩和ケアセンターなどに所属し、組織横断的な活動もしています。患者さんご家族を支えるチーム医療が円滑に機能するよう要となり、必要に応じて専門看護師・認定看護師とが連携して看護の質向上に努めています。

今後も、看護部の理念である「患者さんの権利を尊重し個々のニーズに応じた患者中心の質の高い看護」を提供できるよう、尽力していきます。



研究所で web 講義を開催しました

臨床腫瘍研究所 主任 和田 朋子

8月中旬、研究所ではサイエンススクールの代わりに web 講義を開催しました。

サイエンススクールとは日本学術振興会との共催で実施している「ひらめき☆ときめきサイエンス」のことで、生命科学に興味を持つ高校生に科学の素晴らしさや楽しさを感じてもらうプログラムです。当初の予定では研究所でがん細胞の遺伝子解析を体験してもらうはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら中止となりました。

サイエンススクールは科学を体験するだけでなく、同世代の他校生との触れ合いを通じてお互いに刺激を受けるよい機会となります。今回

そのような機会を提供できなかった代わりに、また違った角度から役に立つことができればという趣旨のもと web 講義は開催されました。

web 講義はサイエンススクール参加予定者の中から web 講義を希望した高校生を対象に「がんの変異」をテーマにして行われました。質疑応答では講義の内容にとどまらず、がんに対する素朴な疑問が投げかけられたり、研究者が研究をするきっかけについて話したり、双方向のコミュニケーションを図り交流を深めました。

科学への興味を深めたり、今後の進路を考へるときの役に立ったり、今回の web 講義がよい刺激となることを願っています。



2019年のひらめき☆ときめきサイエンスの様子

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための取組みについて

総務・人事担当 主査 松本 直記

【新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ】

当センターでは、埼玉県からの要請に基づき、新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れております。新型コロナウイルス感染症の患者さんが入院されている病棟は、万全の感染対策がされ、対応するスタッフも十分に経験を積んでおります。

また、他の患者さんへの影響がないよう万全の注意を払いながら対応しておりますので、ご安心くださいますようお願い申し上げます。

【新型コロナワクチンの接種】

併せて、当センターでは、これまでに職員及び

近隣の医療従事者への新型コロナワクチンの院内接種を実施しており、埼玉県及び伊奈町の実施する院外の集団接種にも積極的に協力してきました。

院外接種の協力にあつたては、院内接種で得たノウハウや感染対策、副反応対策をしっかりと講じ、これまでに、埼玉県ワクチン接種センターなどにおいて、医師・看護師を中心とした職員がワクチン接種業務に従事しております。

また、12月上旬現在、当センターでは職員の3回目のワクチン接種に向けた院内調整を行っており、今後も、埼玉県及び伊奈町等と連携を図り、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための取組みに積極的に協力してまいります。